

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年12月9日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671400143
法人名	社会福祉法人 長和会
事業所名	恵光園グループホームさくらの里
所在地	鹿児島県垂水市本城217 (電話) 0994-32-1881
自己評価作成日	平成22年7月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4671400143&amp;SCD=320">http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4671400143&amp;SCD=320</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年10月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本城川の清らかな水の流れと共に四季の移り変わりの景観も良く、周囲の桜並木は花見の名所として、市民・利用者、職員の憩いの場となっている。垂水市グループホーム連絡協議会の設立にも大きく貢献する等、地域や行政・同業者との連携にも協力し、積極的に取り組んでいる。母体法人の特別養護老人ホームと同敷地内にあり、夏祭りには1000人以上の方が参加され、名実共に地域と密着した交流が行われている。又、家族や地域の方々にGHでの生活や認知症に対する理解を深めて頂く為に、年に4回「さくらの里たより」を発行し、ご家族はじめ、法人の役員、行政・地域代表等へも配布を行っている。毎月の法人全体の研修体制も充実し、今年は「職員一人ひとりが責任と自覚を持って役割を果たす」を目標に個々の質を高めるべく、資格取得へむけての勉強会の実施、又、職員が委員会に属し、利用者様へのサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>光に恵まれるようにとつけられた「恵光園」の施設名にふさわしく、広い敷地と大きくとられた窓でリビングや居室も常に明るい。ゆったりした雰囲気の中、利用者がそれぞれのペースで過ごし、笑顔が輝いているホームである。また、母体施設(特別養護老人ホーム)に隣接し利用者家族の安心感に結びついている。</p> <p>○利用者のペースに合わせる。 自立支援を意識した介護・残存能力の向上を目指した支援の中、職員のチームワークを活かしながら利用者のペースを尊重した個別支援が行われ、ゆったりとした雰囲気と利用者の笑顔につながっている。</p> <p>○職員育成 職種別研修会・入職時研修でのチーフアドバイザーの配置・少人数体制での研修など定期的な法人内勉強会の実施、施設外研修の職員への紹介など、事業所としての職員の資質向上が図られている。</p> <p>○地域を含めた防災体制 地域に協力を呼びかけ防災協力協定を締結し、ホームの運営に携わってもらうことで地域との連携を強化し、母体施設とともに地域から信頼される存在となっている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	認知症を伴う高齢者が家庭的な雰囲気の中で『いつでも、どこでも、その人らしく』の運営方針と理念の中にその言葉がしっかりと盛り込まれて実践している。	運営方針には「地域の中で自分らしく」などの文言があり、地域に根ざしたサービスを意識できる内容となっている。理念を掲示するとともに、スタッフ会議にて具体的に話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は口蹄疫のため、大きなイベント等自粛しているが、毎年、法人主催の夏祭りを開催し、地域住民、他施設、保育園、小・中学校児童、各種団体等、多くの方々と交流を行っている。職場体験、ボランティア等の訪問も多い。	近所の方々との防災応援協定、町内会の催事への参加、散歩の途中で出会う地域の方へのあいさつや声かけによる関係づくりをしながら、学校等との交流会・ボランティア受け入れなど日常的に交流が行われている。	
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	施設は開放的で、見学者等自由に見学していただき、説明案内を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に案内、報告、評価等を受け、より良いサービスが提供出来るようにご意見等参考にして実践している。	2ヶ月に1回開催され、事業所行事等の報告のみではなく、出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっていることが議事録より確認できる。外部評価の取り組みでは参加者にコピーを配布し共有が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が市町村の相談窓口まで出向き、意見、苦情、報告、相談を行って協力関係を築いている。	市担当窓口や福祉事務所などへ事務手続きやその他の機会に頻繁に訪問し、問題や事故や認定手続きなどの情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	自由にのびのびと生活されている。ケアプランでも本人の意思を尊重した又、ご家族の意向も取り入れ、自立した生活が出来る様に支援している。	マニュアルを作成し、その理解と徹底のために研修を行い、廃止委員会を設置している。玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、外出の際はさりげなくついて出たり、見守りを行っている。	
7	0	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修、スタッフ会等、定期的な教育を受け、発見した場合は市町村へ通報義務がある。少しでも異変に気付いたら市町村への努力義務がある事を職員は知っていて、防止に努めている。		
8	0	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修、スタッフ会、地域密着型研修等学ぶ機会が多く個々に活かされている。現在、必要とされる方はいらっしゃらないが、すぐに対応出来る様に体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	0	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者がしっかりと行っている。不安や疑問にもしっかり対応し、理解と納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口を表示してあるので、気軽に相談や自由な意見を聞き、推進会議等を活用し、意見の反映を行っている。	玄関に相談窓口を表示すると共に重要事項説明書に相談窓口を記載している。家族が意見や要望を出しやすいような工夫と配慮が感じられる。職員が苦情・相談などを把握した時には個別ノートなどで他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃の業務に従事している際やスタッフ会で意見や提案を聞いている。業務に必要な意見であれば、すぐに反映させて業務がスムーズに行く様に取り組んでいる。	朝礼、研修会、スタッフ会時に勤務体制などの話し合いをもったり、声を出しやすい雰囲気づくりに努めている。また悩みがありそうな職員には個別面談を行い問題解決を図っている。	
12	0	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日々の業務の中で積極的な取り組みや努力をしていることに対しての確実な評価を行い、報いている。高い意欲と能力を發揮し、向上心をもって働く事が出来るように、職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	0	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内外での研修の機会を提供するとともに、個々に応じての資格取得（介護福祉士・ケアマネジャー）に向けての勉強会も行い、参加している。		
14	0	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域密着型サービス連絡協議会を通じ、認知症ケアに対する勉強会や研修への参加を呼びかけて、サービス提供の質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	0	○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者のご家族にホームの見学をしてもらって、事前情報を得たり、職員や他の利用者と徐々に馴染める雰囲気作りをしたり、家族と連絡を取り合って対応を工夫したり話し合いながら安心して生活できるように援助している。		
16	0	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ心配されない様、話す。落ち着かれるまでは細かく相談したり、報告することで良い方向へ向かわれ安心して生活出来る様になるとご家族も信頼して任せて下さる。		
17	0	○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、ホームに慣れて居場所が出来、他利用者とのコミュニケーション作りを行いながら、ニーズに対応していく。楽しい雰囲気作りを行いながら支援を考えて対応していくようにしている。		
18	0	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として尊敬と尊厳を持って寄り添い、共に生きている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	0	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人がここでの生活が自由に誰にも遠慮されず、その人らしくのびのびと生活される事を考えて家族に相談、協力を得ながら支援している。関わりを多く持つ事で信頼関係が出来る。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ、買物、外出、行事や交流会等、常に園に閉じこもらない様に町に出かけたり、交流の場を提供出来るようにしている。	利用者台帳や面会簿、家族や本人とのふれあいや会話の中から、利用者を支えてくれていた人間関係を把握するとともに、関係を継続できるように面会・電話の支援、墓参りや馴染みの店への買い物などの支援を行っている。	
21	0	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ケンカされたり、トラブルも時々あるが、ゆっくり時間をかけ、お互いに理解して頂ける様にお話相手になり、気持ちをなごませたり、仲良く生活していただける様、誘導している。		
22	0	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どこでお会いしても常に挨拶はしっかり行い、感謝を忘れない様になっている。家族を労う声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	面会時等を利用し、近況報告を行いながら、さりげなく思いを聞ける様に声かけしている。	利用開始前に本人や家族、関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。	
24	0	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ドライブや買物時、車窓から町や人、場所等を見ながら昔を思い出されたり思わぬ事を話されたり、新たな発見をする事が多い。		
25	0	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日様子観察を行いながら1人1人と向き合う様に対話したり、付き添うので現状把握出来ていると思う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアチェック表、毎月の経過状況、カンファレンス、スタッフ会等利用し、検討する機会が多く、意見等取り入れ現状に即した計画の見直しを行っている。	本人も参加した担当者会議を開催し、家族や主治医の意見を取り入れながら計画を作成している。また、スタッフ会議で介護支援専門員と職員が話し合い、介護計画を作成することで、職員はすべての利用者の介護計画を意識して日常の介護を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	0	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートや連絡帳を利用し、情報を共有して計画の見直しに活かしている。		
28	0	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	相手の立場や気持ちに近づける様に寄り添って柔軟な態度で支援している。		
29	0	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回の運営推進会議に地域の代表、派出所、消防の方々等の参加を頂き、GHの現状や取り組みを伝え、協力の依頼もしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、およびご家族の意向を大切に、かかりつけ医を決められ、緊急時や定期的受診ができるよう支援している。	かかりつけ医は本人や家族の意向を大切に決めていく。治療受診時も、適切な治療が受けられるよう個人別の連絡帳等で情報の共有化に努め、良い関係がつけられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	0	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や異常に気付いた時は特養看護師等に伝えて相談し、受診が必要か否かの判断を頂いている。状態に応じ、病院へ連絡したり、受診がすぐに出来る様手配している。		
32	0	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換を行い、情報書として提出している。入院先のケースワーカーや関係者への連絡を定期的に行い、状態把握に努めると共に関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は、今の所、隣に特養があるので重症になった時は退去され、特養を申し込む事になる。	重度化や看取りに対するアンケートを家族に行い、意見を集約している。方針について書面化はされていないが、方針について職員の共有も図られている。	家族からの重度化や看取りに対するアンケートの意見を基に方針を主治医・職員と話し合い書面化していく意向である。
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎訓練は定期的勉強会、研修で実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害と隣り合わせで経験もあり、日頃より全職員に理事長より心構え等、教えられ指導されているので、緊張感は常に持っている。又近隣住民との協力体制も出来ている。	夜間体制を含めた避難訓練や消火訓練を行うとともに、マニュアルを作成し研修も実施されている。地域住民と応援協定を締結し、協力して災害対策を行う体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴等、その他諸々、しっかり把握し言葉遣いやプライドを大切に考えた声かけを行うようにしている。	玄関に方針が掲示され、利用者への言葉かけは十分注意され自己決定しやすいよう配慮されている。また、記録等は事務室の鍵のかかる棚に保管し外来者の目につかないように配慮している。	
37	0	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やさしく対応して遠慮なく物が言える雰囲気や場の設定に心がけている。		
38	0	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の表情や態度をよく観察しながら、無理強いする事無く一人ひとりのペースに合わせて個々に対応している。		
39	0	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご本人が他者の中に入り、恥をかかずに、対等に出来る様に身だしなみに気を使います。化粧をしたり、清潔に過ごせる様に支援したり、洋服も明るい色に着替えたり、本人の意思を大切にして細心の注意を払っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー会議等で食べたい物等聞き、献立たり、季節の物等取り入れたり、下ごしらえから手伝ってもらって、料理方法等話し、食欲が出る様にしたたり、食後は後片付けやコップ洗い等、職員と一緒に台所に立ってもらっています。役にたっている意識があり、喜んで手伝って下さる。	テレビや料理本を見ながら利用者と一緒にメニューをつくることで食事の希望や食欲を引き出す、季節の食材の利用、配膳・下膳を一緒に行うことで食への興味を持ってもらうなどの工夫がなされている。食事前の嚥下体操、庭での食事会も行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	0	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士に献立を見せ、アドバイスを頂いて、意見を取り入れています。煮しめやデザートに至るまでバラエティに富んだメニューが出来、何でもよく食べて下さっています。水分も毎日摂取量を記録して脱水に注意している。		
42	0	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ずつ声かけし、歯磨きされる。出来ない方はお手伝いし、全員口腔ケアがしっかりとできています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お年寄りの心理に配慮し、言動に気をつけ、水分を十分にとっていただくと共に、排泄時には腹圧指導、手掌による圧迫なども適宜行う。清拭を行い、清潔にして尿路感染防止や意欲の引き出しに努め、自立に向けた援助を行う。	個別ノートで時間単位の排泄チェックを行うことで本人の生活リズムを把握し自立支援へむけた介護が行われている。その結果、オムツを外すことができた利用者もいる。	
44	0	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分摂取等、基本的なケアを行い、本人常用の便秘薬を利用している。毎日の歩行訓練等、適度な運動にも注意している。センナ茶や飲用による下剤は、個別の適量を見極めるのが難しく、時々、失禁等引き起こし、お年寄りの精神的な苦痛になりかねないので、医師処方して頂いた物を使用している。排便チェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	バイタルチェック、気分等をチェックし、排泄を済ませてから行う。すべりやすいのでマットを敷き、つまづかない様注意する。入浴拒否の方は無理強いせず時間をずらし、声かけを行ったり、次回を待つ。天花粉をつけると機嫌よくなる方は、本人の望まれるようにすると最近は入浴拒否もなくなった。	体調や希望により入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけタイミングをみた声かけを行い、希望者には入浴後に天花粉を使用するなど入浴を楽しむ工夫がされている。	
46	0	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	少し具合の悪い時等、簡単な手当てをしてあげ、症状を和らげるように気持ちを和らげる声かけ等を行い、安心して休まれるようにしている。巡視もその時々により違うので、異変に早く気付ける様、様子観察を行っている。		
47	0	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師に相談し、症状を良く観察して報告し、薬が変わったら連絡帳等を利用し、全員が把握し、すぐに対応出来る様にしている。服薬時は必ず本人の顔と薬が一致しているかを確認し、誤薬のない様にしている。		
48	0	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動も工夫を行う様に職員全員でマンネリ化しない様取り組んでいる。できるだけ向き合い、お話する時間を作り、その人らしさを引き出せる様にしている。家族にも近況報告したり安心される様、声かけしているので、面会も多くなり協力をして下さる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出は買物、ドライブ、イベント等、出掛けられる機会は多い。季節を感じながら自由に外出され、町の様子等しっかりと見て、話題も多くなっている。足湯等にも喜んで出掛けられる。	広い敷地にたくさんの桜が植えられ、所々にベンチが設置されて、庭での食事会、お茶会、花見や外気浴が行われている。また、本人の希望に応じて買い物、ドライブ、墓参りなど戸外に出かけられるように配慮し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	0	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて対応している。買物に月2～3回行かれ、自分で品定めされ、預り金を本人に渡し、レジにて支払いを自分でされている。自立支援出来る様に声掛け、支援行っている		
51	0	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族の思いや本人の思いを考えて、出来るだけ心のふれあいが出来るよう電話口に出てお互いにお話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員それぞれ工夫を行い飾りつけを行うと利用者も喜んで見たりされ、話題作りになったり、季節に応じた飾りつけ等、変化のある生活が出来る様に季節感を出した演出に心掛け、心地よい音楽等も流している。	桜がきれいに植えられた敷地はとても気持ち良く、共有空間には絵画や花が飾られ、リビングや廊下は思い思いにくつろげるスペースが確保されている。リビングは日差しが良く、家庭的な雰囲気がただよい、明るく心やすらぐ居心地よい空間となっている。	
53	0	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座り、ゆったりと1日過ごされたり、居室で音楽を聞いたり、ダンスの中身を出したり、入れたり、自由に動いていらっしやるので各自の意思を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や在宅時に良く使用しておられた物等で、家と同じ感覚で過ごされる様にしている。又、季節に応じた飾りつけ等で時季を感じて頂いている。	家族とも相談しながら、一人ひとりの希望や状況に応じて位牌、写真、扇風機、椅子、ラジオ、ぬいぐるみなど馴染みのあるものが持ち込まれ、居心地のよい空間となっている。	
55	0	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の意思を尊重し、無理強いしていないので、やりたい事をされている。明るい住まい空間や運動の出きるスペース、人との交流の場等、環境は整っている。又、玄関入口のスロープや廊下、トイレ、浴室に手摺りの設置がしてあり、安全性は確保してある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	月1回のスタッフ会議で運営方針・理念を全員で唱和し、利用者一人一人の機能に合わせたサービスの提供が出来る様にスタッフの意識改革、実践へとつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で行う行事（運動会・敬老祝賀会・夏祭り等）には、声かけ行い参加して頂くと共に、ボランティア・体験学習等、積極的に受け入れて交流を図っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々が施設の見学に来られており、運営推進会議に出会の際に、認知症の方の理解を求めると共に、説明を行っている。あくまでも自宅の延長線上での生活援助であるとの認識を深めて頂く。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、家族からの意見や行政の方々からの助言をスタッフ会で伝え、より良いサービス提供を行う様に改善すべきことはすぐに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回の運営推進会議への参加を頂き、実情を伝えている。又、地域密着型サービス事業者の会や集団指導等の場で指導を仰ぎ、協力関係を築く様に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内研修やスタッフ会において、身体拘束についての勉強を行い、認識を深めると共に、日中は利用者様と一緒に活動しながら見守りを行い、必要な方は在園確認表を利用し、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修やスタッフ会において、虐待について勉強を行い、事業所内であってはならない事としてとらえ、防止に努めている。又、スタッフへのアンケートを実施。個々の意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内研修や福祉関係の書籍で勉強している。現在、必要とされる方はいらっしゃらないが、すぐに対応出来る様な体制は整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には重要事項説明書に添い、十分な説明を行い、本人家族の理解納得の上で、契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者・家族が何でも話せる雰囲気作りが出来ており、意見・要望が聞かれた場合は、本人・家族が納得のいく様に対応している。苦情に対する説明も行っており、面会時等に有無の確認も行っている。又、目の付く所に相談・苦情の張り紙をして、環境を整えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃の業務に従事している際やスタッフ会で意見や提案を聞いている。業務に必要な意見であれば、すぐに反映させて業務がスムーズに行く様に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日々の業務の中で積極的な取り組みや努力をしていることに対しての確実な評価を行い、報いている。高い意欲と能力を発揮し、向上心をもって働く事が出来るように、職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内外での研修の機会を提供するとともに、個々に応じての資格取得（介護福祉士・ケアマネジャー）に向けての勉強会も行い、参加している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域密着型サービス連絡協議会を通じ、認知症ケアに対する勉強会や研修への参加を呼びかけて、サービス提供の質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、事前に見学に来られたりされた時は、本人の安心につながる様に対応し、傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や悩み等の訴えは十分に聞き取り、施設内での方向性や機能等を理解して頂き、安心へとつながる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている事を十分に聴き、出来る範囲で相談に応じている。又、法人内でのいろんな事業展開を見学や説明を受けることで安心されている状況です。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の流れの中で利用者様からの学びがあったり、共に行い、築き上げる作業を通じての達成感や満足感を味わって支えあう関係構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態を蜜に報告しながら、皆でその方を支えていくという意識を持って頂く様に働きかけると共に入居時に十分説明を行っている。又、事あるごとに家族に相談、協力を得ながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時の聞き取りや日頃、家族や本人とのふれあいや会話の中から把握して行きたい場所や思い出の場所に行ったりしている。又、ドライブや買物等、知人や親戚と逢う機会があり、喜ばれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小グループなので変化や思いを把握しやすい環境である。生活のリズムを共有することで孤立されることなく、それぞれが関わりを持ち、支え合っているのだと実感できる様に意識した支援を心掛け実施している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「何かあったらすぐにご相談して下さい」と伝えている。又、入院・転居等の場合も状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と真から向き合い、本人の望む生活の実現と夢を叶える事が出来る様に努力している。又、困難な場合は本人の立場に立ち検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い時から現在に至るまでの生活の把握に努めると共に、その方自信を良く知る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に様子観察を行い、連絡帳や朝の引継ぎ等を利用して把握に努めている。人としての個性と尊厳を大切にケアを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がどのような生活や生き方を望んでいるか、又、それを叶えられる様にするのが、ケアプランの主旨なので、機会があるたびに聞いて、プランを立てている。又、目標期間中、状態の変化で実行不可能になった場合や期間終了前にはプランにそった評価を出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事あるごとに記録の大切さを全スタッフに伝え実施している。個々の終日の記録や生活記録等、その日のうちに記入し、情報の共有にも努めている。そうすることでケアプランの実施や見直し、日頃の個々の生活に活かしていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人として長年の経験がGHにも活かされ、本人・家族にも色々な楽しみ、喜びを与える事が出来、多いに反映されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回の運営推進会議に地域の代表、派出所、消防の方々の参加も頂き、GHの現状や取り組みを伝え、協力の依頼もしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ入居前のかかりつけ医の定期受診、緊急時の受診を本人及び家族等の希望を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化時はすぐに特養の看護職員がかけつけて下さり、緊急処置や受診の手配等の指導を受けている。日頃より交流を図り、利用者様の様子も理解してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換を行い、情報書として提出している。入院先のケースワーカーや関係者への連絡を定期的に行い、状態把握に努めると共に関係者との関係作りにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より家族の意向は聞いている。又、状態の段階を十分に説明しながら、重度化、終末期のあり方をその都度確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修やスタッフ会でのテーマとして取り上げ、すべての職員が緊急時の対応や応急手当の方法を勉強して、実践力へとつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回のスタッフ会での避難方法の確認や年2回の特養との合同の訓練により、利用者様を安全な場所へ避難出来る様になっている。又近隣住民との協力体制もできている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	知らず知らずのうちにプライドを傷つける様な声かけがあったりしますが、毎月の自己評価の中で反省したり、見直しを行っている。それぞれの職員の声かけ等良く聞き、良い事はマネをして、悪い事はそのつど注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定出来るように支援している。訳が分からず、自分の思いも言えない方は様子観察を行い、その方にとって一番最良の方法を考えながら支援している。又、家族とも相談しながら、又、本人にも分かる様に説明している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切に考え、明るく楽しく生活して頂ける様、本人のペースに合わせて寄り添ったケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日の整容の時間の中で、男性は髭剃り、女性は外出時は本人と相談し、希望される服を着て頂いている。月1回は散髪屋さんに来て下さり、身だしなみは整えられている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間やメニューをお伝えし、食べる事が待ち遠しくなり食欲が出る様に声かけを行っている。献立を決定する際は利用者様にもメニュー会議に参加して頂き、リクエストにも答えている。もやしや根つきやごますり等、調理の補助をして頂くと共にコップ洗い等にも参加されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3回の食事摂取状況、水分摂取量を確認し、毎回記録を取っている。1人1人の様子観察を行い、状態に応じて水分補給等に配慮している。又、献立を特養の管理栄養士に確認してもらい、アドバイスをすぐに反映しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施している。1人1人の状態に応じて細かい声かけ指示を行い、できるだけ自分で行う事が出来る様に支援している。できない方は職員が義歯の出し入れ、洗浄まで行っている。又、週1回は義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意の訴えのない方も定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を行っている。1人1人の状態に応じての声かけや誘導、一部介助を行う事で、失敗が少なくなり、快適に過ごす事が出来ている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表にて個々のリズムを共通理解し、不穏行動が見られる時等、早期の誘導で落ち着かれる事もあった。又、水分摂取や運動量を増やしたりして様子観察を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	火・木・土の午後からの入浴が楽しみとなる様な声かけを行って実施している。行事等と重なった場合は変更になったりするが、週3回の入浴で清潔保持ができています。拒否はほとんどないが、あった時は無理強いはせず次回を待つ。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安息の時間は食後の30分位で昼夜逆転となる事のない様に余暇活動や園庭散歩等で覚醒を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後の薬の処方については、そのつど連絡帳へ記入を行い、情報の共有を行っており、服薬時は必ず本人の顔と薬が一致しているかを確認し、誤薬のない様にしている。変更があった場合は、様子観察行い記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や職歴を本人・家族より聞き取り、それぞれの得意とする事や興味のある事、好きな事を日々の流れの中で見つけ出し、役割を持って頂いている。買物支援等は良い気分転換となり、皆笑顔が見られている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎月、1～2回個々のプランに応じてドライブ支援を行ったり、園全体での行事で足湯へ行ったりと外出の機会が多い。又、御家族の面会時や病院受診後の昼食等、共に食事の機会が得られる様に協力を求め、実施されている方も多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々の能力に応じて対応している。自分で管理できる方は買物時の支払いもされ毎日の様に確認されている。出来ない方も預り金より御自分で支払いが出来る様に声かけ、支援を行って自払いの喜びにつなげている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族からの電話は必ず取り継いでいる。本人希望の時も必ず自らかけられ、出来ない方はスタッフがかけて取り継いでいる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎月、職員と共同の元、季節を感じることを出来る作り物や壁飾りを作成し、心地良い空間を作り上げている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを3ヶ所に配置してあるので、どの場所からもテレビ視聴が出来たり、気のあった方同士で自由にそれぞれの居室を行ったり来たりされ、楽しく過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の写真や在宅時に良く使用しておられた物等で家と同じ感覚で過ごされる様にしている。又、季節に応じた飾りつけ等で、時季を感じて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口のスロープや廊下やトイレ・浴室に手すりの設置がしてあり、安全性は確保してある。各居室とトイレにはナースコールもあり、個人の能力に応じて使用され、安心した生活が送れている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない